

氏名	小川 貢平
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第690号
学位授与年月日	令和8年3月19日
審査委員	主査 教授 山根 正修
	副査 教授 藤田 幸
	副査 准教授 金崎 春彦

## 論文審査の結果の要旨

小径腎細胞癌に対するロボット支援腹腔鏡腎部分切除術 (RAPN) は標準治療であり、制癌性に加えて腎機能温存および合併症の回避が求められる。RAPNでは、腫瘍切除前に腎動脈をクランプ (阻血) し、①切除、②切除面底部縫合、③腎実質修復を行った後に血流を再開するStandard unclamping technique (SUC)が普及している。当院では2021年から②底部縫合の後、すなわち③腎実質修復の前に血流を再開するEarly unclamping technique (EUC)を導入している。本研究では、当院で2013年から実施したRAPN 117例を対象に、SUCとEUCについて傾向スコアマッチングを用いて患者背景を調整し、SUC群とEUC群 (各31例) における周術期成績および腎機能変化を比較・検討した。その結果、EUC群ではSUC群と比較して温阻血時間が有意に短縮され、術後6か月および12か月におけるeGFR低下率が有意に低値であった。さらに多変量解析において、EUCは術後12か月時点の腎機能温存に独立して関連する因子であることが示された。一方、EUC群では術中出血量が有意に多かったものの、両群間で術後ヘモグロビン変化率に有意差は認められなかった。以上より、EUCは合併症の増加を伴うことなく温阻血時間を短縮し、術後腎機能温存に寄与する有用な手技であることが示唆された。